

今年度はメインプログラムにおいて、メイクアップ会員等から寄稿をいただき外部卓話を実施することによって、例会の幅を広げるとともにメイクアップ会員等との相互理解を深めることを考えておりました。

今回はその第1弾として、今期においてEクラブに複数回メイクアップいただいているロータリアンの中から、久留米北ロータリークラブの尾形 学 会員にご寄稿のご相談をさせていただいたところ、快くお引き受けいただき外部卓話を実現できたところです。

尾形会員には心から感謝するとともに、今後更に親睦を深めさせていただければと思います。  
それでは皆さん、尾形会員の卓話をお楽しみください。(例会プログラム委員長 柴田)

ジャパンカレントロータリーEクラブの皆様、今日は。

私は久留米北ロータリークラブの尾形学と申します。この度、貴クラブの例会プログラム委員長である柴田会友より、外部卓話のご依頼を仰せつかりました。

この様なお話しを頂いたことは、大変光栄であると共に、また大変恐縮している次第でございます。  
それではまず簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は昭和30年2月 現福岡県久留米市安武町にて、専業農家の次男として生まれました。地元高校在学中に錦鯉と巡り合い、大学に進学するより、この錦鯉の養殖を一生の仕事としたいと志し、卒業と同時に錦鯉養殖の本場である新潟県小千谷市にて6年間、修行をし、帰郷と同時に本格的な養殖をスタートしました。

順調に生産量を伸ばし、また品質の向上もでき、全国錦鯉品評会でグランドチャンピオンを獲得するなど、着実に業績を上げていく中、1990年代初頭より始まった、いわゆるバブル崩壊に伴う国内市場の急激な縮小により、徐々に業績が悪化していきました。その状況を何とか打開すべく、活路を海外に向けたのが錦鯉の輸出の始まりでした。

その甲斐もあって、現在では、アメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなど、世界約30か国に錦鯉を輸出し、錦鯉輸出のパイオニアとして、日本の伝統文化「錦鯉」の世界への発信に貢献しております。

ロータリーとの出会いは、若かりし頃入会していた久留米青年会議所在籍時の友人からのお誘いでした。最初は何度もお断りしておりましたが、ちょうど満60歳を迎え、そろそろこの様な地域活動や社会貢献もしなければならぬ年齢かなと思い入会させていただきました。

久留米北ロータリークラブに入会しての第一印象は、会友みんなが長年付き合っている旧友みたいな気取らない、ほのぼのとした雰囲気でした。

例会に出席すると、いろいろな年齢層やいろいろな職業の会友との出会い、そしてそれぞれの方々の意見や発想に感動する毎回でした。また女性会員も数名おられて、例会の雰囲気が華やかになり、本当に入会してよかったと思っています。

仕事柄、国内外出張も多く、ホーム例会に出席することがしばしば困難となり、近隣クラブにてmake upしておりましたが、出張が重なるとそれも中々ままならないような状況になっておりました。

そのような中、当クラブの稲益会友より貴Eクラブのことを聞き、make up をさせていただくようになりました。仕事が終わった後、事務所のパソコンを使い、日々の出来事の話などを感想文として書かせていただいていたおりましたが、それが目に留まったということが、今回のご依頼に繋がったと聞き、改め

て感激しております。

しかし、ホーム例会出席がロータリーの基本であることは言うまでもなく、当クラブの事務局の村山女史に言わせると「このような依頼って名誉なことですか？ もっとホーム例会に出席くださいネ！」と言われる始末、本業が忙しい時のみ貴クラブにてmake upをしようと心掛けております。

最後になりましたが、ここで我が故郷「久留米市」についてご紹介をしたいと思います。

久留米は有馬 21 万石の城下町として栄え、戦前からゴムの町といわれております。ブリヂストン、月星化成、アサヒシューズが久留米から発祥致しました。

また久留米大学病院、聖マリア病院など大きな医療機関があり、医者町ともいわれております。

そしてグルメでは豚骨ラーメン発祥の地、また焼き鳥屋の多いことでも日本一と言われております。

それから芸術、文化、芸能面でも多くの著名人を輩出しており、画家の青木繁、古賀春江、坂本繁二郎、作曲家の中村八大、歌手の松田聖子、チェッカーズ、そして女優では藤吉久美子、吉田羊などが活躍しております。

取り留めのない卓話内容となりましたが、最後にジャパンカレントロータリーEクラブの益々のご発展と皆様のご健康ご多幸をお祈りしつつ、今回の卓話を終わりたいと思います。

そしてまた、皆様も久留米においでの際は、ぜひ当クラブを訪問して頂けたら幸いです。

有り難うございました。

久留米北ロータリークラブ 尾形 学